

財政・税制についての授業実践報告

東京都立青山高等学校 富塚 昇

I はじめに

2009年の冬季合同分科会で、拙い「現代社会」の授業実践を報告させていただいた。本稿では、その発表の続きの部分として、2009年度3学期の「現代社会」において行った授業の一部の実践報告をさせていただきたい。3学期の最初には2学期の引き続きで、経済分野の「財税・租税」の授業を行った。

II 財政・租税制度についての授業展開

1 ねらい・目標

- ① 現代日本社会の財政・租税の制度についての課題について関心を深め、理解することができたか。
- ② 現在の課題を理解した上で、税の公平について考えることにより、望ましい社会の在り方をふまえて個人としての認識を深め、表現することができたか。

2 各時の目標と概要

① 1時間目

目標 基礎知識の確認

概要 財政及び租税制度について、一問一答のプリント（[資料1]）によって基礎知識を整理する。経済における政府の役割の3つの役割について、「フリーライダーの発生」に焦点を当て、板書しながら説明をする。その後教科書を読ませながら、「資料1」の一問一等のプリントに解答をしていく。

○資料1「財政・租税についての一問一答のプリント」

- 1 社会資本の整備など市場機構に委ねることが困難な公共財を提供する財政の役割を何というか。
- 2 累進課税制度や社会保障制度などによって所得格差を小さくし、平等を実現しようとする財政の役割を何というか。
- 3 景気の過熱を抑えたり、不況対策を行うなど、景気変動の波を緩和しようとすることを何というか。

(4～26略)

② 2時間目

目標 税における「公平」（垂直的・水平的公平）について、負担についての考え方（応

能負担と応益負担) 理解し、税制を通じて個人の「自由」と「公正」な社会について認識を深める。

概要 資料 2 及び資料 3 を配布し、所得税、消費税、法人税、相続税の特徴を理解し、それぞれの税がどのような立場の人にどのような影響があるかを具体的に考えさせる。その際に、資料 4 を配付し正義が実現する社会、公正な社会とはどのような社会だろうか、という問題に触れて J. ロールズの正義について簡単に説明する。さらに資料 5 を配付し、自分が生まれ変わった時にどのような境遇になるか分からないというという前提で、もし、増税するとしたら、上記の 4 つの税をどの程度増税をするか、ということ を 4~5 人のグループで考えることにより、個人の自由と平等、公平な社会とはどのような社会かを考えさせる。

○資料 2 『税のしくみ』(宮島洋) 岩波ジュニア新書より、「税についての討論会」の部分の抜粋を利用した資料。

A 豊かな人はたくさんお金を持っていて多少ぜいたくをしたって税を払うことができるはず。貧しい人はつましい生活しかできないのだから、税を払わずのは気の毒です。払える人から払ってもらおう。これが税における「公平」というものです。

B 税は政府の仕事の費用をまかなうものです。政府の仕事の恩恵は貧しい人にも及ぶのだから、貧しい人も応分の税を払うのが当然です。利益に応じた負担、負担に応じた利益、こちらの方が本当の税の公平です。

(中略)

F なんととっても一番いいのはワリカンです。いっそのこと割り勘にしましょう。カラオケ大会ワリカンだし、忘年会はいつも決まってワリカンです。このようなときにワリカンに反対の人はいないでしょう。これならば単純だしまるく収まります。

(後略)

○資料 3 A さんから E さんまで架空の人物のプロフィールを作成した資料。

A さん 30歳男性既婚。大学卒業後、地方公務員として働き始めた。現在担当している部署は住民からの苦情処理が中心であり、苦勞が多い仕事である。家庭は職場結婚をして二人の子供が生まれた。親に特別な財産はなく、何とか二人で貯金をして家を建てたいと考えている。不況になっても失業の不安はないが、最近父親が病気となり、入院費用を負担することになった。これから子どもの教育費もかかるようになるため、生活は決して楽とは言えない。

B さん 30歳女性未婚。早くに父親を亡くし、貧しい境遇に育ち、塾などには行くことができなかつたが、奨学金を得ながら大学に進学した。就職した企業でデザイナーとしての才能を開花させ企業を立ち上げ独立して3年。企業としての年商は10億円。自分の所得も年収2000万円となった。しかし、この業界は浮き沈みも激しいので、将来への貯

蓄はしっかりしなければならないと考えている。(Cさん、Dさん、Eさんのプロフィールは省略)

問題1 AさんからEさんの現在の境遇を踏まえて、「所得税」、「法人税」、「相続税」、「消費税」の4つの税について、生活に影響が大きい税と小さい税を整理しなさい。

(Cさん、Dさん、Eさんの分は省略)

	増税するとしたら 影響が大きい税は何か	増税をするとしたら 影響が小さい税は何か
Aさん		
Bさん		

○資料4 J. ロールズの正義について考え方を紹介した資料

正義が実現する社会、公正な社会とはどのような社会だろうか。「公正としての正義」をいう書物を著したJ. ロールズは次のような正義の実現について次のように考えた。

J. ロールズ(米 1921~2002)の考え方

各人が「無知のベール」によって自己の能力や資力、社会的立場などを知られていない「原初状態」では、誰もが最も不遇な人が最大限に保護される社会を選択すると考えた。そして、そのような社会の公正としての正義は「各人は社会生活をおくるさいに基本となる自由に対しては平等の権利を持つ」(第一原理)、「社会的・経済的不平等は、それが最も不遇な立場にある人の福祉を促進することに役立つ限りで容認され、社会の全構成員に機会の均等が公正に与えられているという条件下で発生したものに限定される」(第二原理)と言う二つの原理で成り立つと説いた。

◎ロールズの「原初状態」について—『ソフィーの世界』(ヨースタイン・ゴルデル著)より抜粋

A(アルベルト) 「ジョン・ロールズはおもしろい頭の体操を考案している。ちょっと、未来社会のすべてのルールをつくる委員会のメンバーになったと想像してごらん」

S(ソフィー) 「はい、そういう委員会に出席していることを想像したわ」

A 「委員会は何から何まで決めるんだ。そして委員会が合意をして、ルールにサインをしたとたん、君たちは死ぬ」

S 「わあ、ひどい話！」

A 「でもすぐに、君たちがつくったルールで動いている社会に生まれ変わる。でも、その社会のどこに生まれるか、つまりどんな社会的立場に立つかはわからないというのが、この頭の体操のミソなんだ」「そういうのが公平な社会だろう。誰もが平等な扱いを約束されているのだから」

S 「女性も男性もね」

A 「もちろんさ。なぜならロールズの頭の体操では、誰も男に生まれるか女に生まれるかわからないのだからね。確率が五分五分ならば、社会は男性にも女性にも魅力的なようにつくられるだろう」

○資料 5 増税するとしたら、どの税をどの程度増税するかを考えるための資料

問題2 いま、国家財政においては50兆円の歳入があるとする。無駄遣いをカットしてもこれからの「年金」や「社会保障」の充実、また国債費の償還（返すこと）のためにあと10兆円の税収を増やしたい。税収を増やすための方法としては、「所得税」、「法人税」、「相続税」、「消費税」の4種類の増税を考えるとする。（中略）

増税額の合計が10兆円になるようにするためには、所得税から消費財までの増税額をどの程度にしたらよいか。問題1を踏まえて、皆さん一人ひとりが上記の5人の人になる可能性があるということを念頭に置きグループで意見をまとめなさい。

（授業では別に4つの税をどの程度増税するかという「集計表」を配付しているが、ここでは省略させていただく。）

③ 4 時間目

目標 わが国の財政状況を理解し、消費税率の上昇という問題を通して、望ましい税のあり方、「公正な社会」とはどのような社会かを考える。

概要 日本の財政状況について確認をして、消費税の長所・短所を理解する。3 時間目に行った「資料 5 のまとめ」の「消費税率」の上昇もやむを得ないという意見が多いことという結果をふまえ、これまでのまとめとして、日本の財政状況と消費税率上昇についての自分なりの考えをまとめる。その際、資料 6 により「消費税」の増税についての二つの考え方を理解する。その上で、これまでの授業についてのリアクションペーパーを配付する。その中で、消費税率の上昇について、公正な社会について、4 時間の授業について意見や感想を記述する。

なお、リアクションペーパーにおいて生徒が書いた意見・感想は次の時間までにワープロにうち、まとめの教材としての次の時間に配付する。

○ 資料 5 のまとめのプリント(3 時間目に行ったグループワークー資料 5 の問題 2 について、4~5 人でグループ討議を行った結果)。以下の表がグループ協議の結果をまとめたものである。

1組	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班	平均
所得税	1兆	4	1		3	1		2	1	1.4
法人税	2兆	3	2	1	2	1	2	4	4	2.3
相続税	2兆	3	2	4	3	3	5	2	2	2.8
消費税	5兆		5	5	2	5	3	2	3	3.3

1組の1班は10兆円の増税のために、所得税を1兆円、法人税を2兆円、相続税を2兆円、消費税を5兆円分上げる、というふうに考えたということであり、クラスの平均では所得税1.4兆円、法人税2.3兆円、相続税2.8兆円、消費税3.3兆円ということになる。

また、各税の増税に関しては次のような意見が見られた。

所得税＝「不景気なので働いている人たちの意欲を下げないため」「高額所得者はもう少し払えと思う」

法人税＝「法人税を上げて企業の利益が減ると雇用も減るから」「国際競争力の問題が気になる」「もうかっている企業からはとった方がよいと思う」

相続税＝「相続税は親の努力なので税はいっぱい取っても大丈夫だと思った」「所得税に加えて二重に払うことになるという考えに納得した」

消費税＝「他の先進国に比べて日本は消費税が少ないので上げるべき」「国民的にあまり上げてほしくない」

○資料 6 について

ここで用いた資料は「日本の論点 2010」より「国債発行か、消費税アップか」という論点について、石弘光氏の「国債発行は将来のつけをふやすだけ。消費税率を早急に実施すべし」という文章と、榊原英資氏の「国債発行にはまだ余裕がありー消費税増税は4～5年後に」という文章のプリントを生徒に配付し、論点を確認した。石弘光氏は「介護や福祉での国民の安心が高まれば、家計も懐をゆるめ個人消費も伸びるであろう」そして「国民の負担があつてこそ社会保障が充実する」と述べ、一方榊原英資氏は「日本の政府部門の赤字の絶対額は大きいですが、これは家計の貯蓄によってカバーされているので少なくとも今のところ心配するような状況にはない」といえるのであり、「景気の先行きが不透明なときの増税は、きわめて不適切です」と述べている。高校1年生には難解な部分もあるので、こちらで結論的とその理由が簡潔に述べられている部分に傍線を付して配付した。

○リアクションペーパーの配付

- 1 今までの授業で学んだことと「消費税を上げるべきか、上げるべきではないか」についての主張を踏まえて、「消費税」についてのあなたの意見を述べなさい。
- 2 財政・租税の授業を通して、個人の税の負担や「社会のあり方」及び「公平」について考えたこと、思ったことを述べて下さい。

- 3 授業で利用した資料・プリントについて（①～④まで5段階で評価する）
- ① No. 1のプリント 1問1答式のプリントで知識・理解は深まりましたか。
1ヶ所に○を付けて下さい（②～④も同様に5段階評価をする）
- 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ② No. 2のプリント AさんからNさんが、いろいろな「税」について議論している
プリントで、税に関する知識・理解は深まりましたか。
- ③ No. 3-①のプリント
J. ロールズの考え「公正としての正義」を踏まえて、10兆円増税しなければならない
としたら、どのような税をどの程度増税するべきかというプリントで「税のあり方」
について、考えを深めることが出来ましたか。
- ④ No. 4 消費税についての二つの主張で「消費税のあり方」について、考えを深め
ることが出来ましたか。
- 4 財政・租税で利用の授業について理解したこと及び授業全体について意見や感想があっ
たら述べて下さい。

○リアクションペーパーの集計（5段階評価の割合と平均点）

	評価	1	2	3	4	5	人数/平均点
①「資料1」 一問一答	人数	1	15	50	71	23	159人
	割合	0.6%	9.4%	31.4%	44.7%	14.5%	3.66点
②「資料2」 望ましい税の討論会	人数	0	2	30	90	37	159人
	割合	0.0%	1.3%	18.9%	56.6%	23.3%	4.02点
②資料5「増税する としたらどの税か」	人数	0	6	34	88	31	159人
	割合	0.0%	3.8%	21.4%	55.3%	19.5%	3.91点
③「資料6」消費税 について	人数	0	4	39	81	35	159人
	割合	0.0%	2.5%	24.5%	50.9%	22.0%	3.92点

表の見方は、「①資料1 一問一答」については、評価を「1」と回答したものが1名0.6%、「2」と回答したものが15名9.4%、「3」と回答したものが50名31.4%、「4」と回答したものが71名44.7%、「5」と回答したものが23名14.5%、5段階の平均点が3.66ということである。

○生徒の意見・感想（様々な意見が見られたが代表的なものをあげさせていただく）。

1 消費税について

「どうしても必要ならば、増税は仕方ないと思います。でも、すべての税金を上げるのではなく、生活必需品とぜいたく品で税率を変えるべきだと思います」「不景気の今誰にも等しくかかる消費税をあげることによって、生活に困る人も増え他の問題も起こると思う」

2 個人の税の負担や「社会のあり方」及び「公平」について

「誰もが納得できる税のシステムを整えることは難しいのだと改めて実感した」

3 授業全体について意見や感想

「どれも難しく、私たちが考えるには大きすぎる問題ばかりだけれど、これを考えて実行に移す世代になっていくのだなあと感じた」「様々な税があり、それによって損得をする人たちが変わってくる。国民が公平に税の負担をするのは難しいと思った」「授業を受けて、今度税について動きがあったら、文句を言う前にどうしてそうなったのかを考えようと思えた」

3 生徒の授業評価と意見・感想を踏まえての考察

財政・租税制度の授業を行うにあたって、次の点に留意した。

①基礎知識をしっかりと確認すること（資料 1）。②なるべく論争的なテーマを取り上げること（資料 2）。③個人の意思決定と社会全体の問題と結びつけて考えることができるように工夫を試みること。そのために④そのテーマについて生徒同士の討論などの機会を設けること（資料 3）。また、⑤論点について意見を書かせ、それを代表的な意見についてワープロで打ち生徒にフィードバックし、考えを深めるための教材とすること。

生徒の感想を見ると、本校の生徒が物事に対して肯定的に答え、授業に対しても過大な評価をしている面はもちろんあるが、生徒の授業への参加度についてはある程度の感触を掴むことができたのではないかと感じている。

新学習指導要領の「現代社会」において「2 内容 （1）私たちの生きる社会」の項目では「現代社会における諸課題を扱う中で、社会のあり方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる」とある。さらに、現代社会の『解説』では（2）の「項目ごとに課題を設定し、内容（1）で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させること」とある。個人の「幸福」と「公正」な社会の実現について、「正義」を媒介として考えることができるような授業を構成していくということが求められているということなのだろうか。

新学習指導要領のこの課題には、一回一回の授業の積み重ねによって答えていくしかない。ただし、授業を構成するにあたり J. J. ルソーの「人間を通して社会を、社会を通して人間を研究しなければならない。政治学と倫理学を別々に取り扱おうとする人々は、

そのどちらにおいても何一つ理解しないことになるのだ」[『エミール』(中 P. 74) 岩波文庫]という言葉は常に念頭に置いておく必要があるのではないかと思われる。また、社会学者のC. W. ミルズは『社会学的想像力』において、「個人環境に関する私的問題」と「社会構造に関する公的問題」を結びつけて考える能力としての「社会学的想像力」を提唱している。この概念も授業構成の重要な視点ではないだろうか。

私は最近偶然に“Learning to Teach Citizenship in the Secondary School” (Edited by Liam Gearon) という文献に触れる機会があったのであるが、たまたま読んだ一つの章 (Citizenship and the Role of Language) に次のような記述があった。

「シチズンシップは学校の科目としては『トーク』—活動そして説明の面で—に力点を置くという意味でユニークである。『トーク』はいくつかの理由でシチズンシップにおける教えることと学ぶことにとって中心的なことである。第一に、それは思考を刺激する。第二に、シチズンシップ問題は社会問題であり、社会問題はダイアログを通して探求される。第三に、公的な問題のディベートに関わることは、民主的社会における参加の必須条件である。

シチズンシップをめぐるディスカッションは、取り扱う問題の本質と論争のタイプの両方の点で他の科目の議論とは異なる。シチズンシップイシューは私たちがどんな社会に住みたいか、それはどのように実現するかについてのイシューである。

イシューは論争的な—例えば正義・権利そして責任などの概念めぐって、そして、これらの概念が異なった社会状況の中でどのように解釈されるかを巡って展開される。そして目的は手段を正当化するか、より少ない悪はどちらか、などの問題が議論されてきた。

シチズンシップを巡るイシューは多次元的である。それらは多くの学問に関係する。典型的には政治、法、経済、倫理である。そのため私たちはシチズンシップを多次元的科目と考えている。シチズンシップを教える主な目的の一つは、生徒たちがこれらの学問の言語をすらすら話せるようになり、学んだことを異なった社会状況において適用することを手助けすることである。」

私は「シチズンシップ教育」ということについて知識があるものではないが、シチズンシップを「現代社会」に言い換えて読んでも全く違和感なく読むことができるのではないだろうか。

本稿は、新学習指導要領を視野に入れた些細な試みであり、皆様のご批判を賜ることにより、一層の改善に努めていきたい。